



感染対策室ニュース

2023年3月22日 大阪南医療センター発行

3月24日は世界結核デー

「Yes! We can end TB!」

Yes!私たちは結核を終わらせる
ことができます



結核予防キャラクター
「ヨネくん」

知っていますか?

結核は国内で年間2万人以上が新たに発症している感染症で早期発見、早期治療があなたと家族、そして社会を守ります。

世界結核デーとは

1882年3月24日にドイツの細菌学者ロベルト・コッホが「結核菌の発見」を学会で発表しました。WHO（世界保健機関）は、結核問題の重要性を警告し、結核対策の強化の必要性を訴えるため、この日を「世界結核デー」と決めました。

世界結核デー2023は、「Yes! We can end TB!」をテーマに、希望を鼓舞し、結核の流行に立ち向かうためのハイレベルなリーダーシップ、投資の拡大、WHOの新しい勧告の迅速な取り込み、イノベーションの採用、行動の加速、多部門の協力を促すことを目的としています。

長引く咳は要注意

日本は2022年初めて結核低蔓延国（10万人あたりの罹患者数10人未満）入りを果たすことができました（2021年10万人あたりの罹患者数9.2）。一方大阪府は10万人あたりの罹患者数は13.3と依然高値です。結核は早期発見・治療が重要です。咳や痰、微熱や倦怠感が続く時は結核も疑いましょう。

厚生労働省

私が結核？
つて思いました。
早く分かったので、
今はこうして笑っていられます。

結核は、早期発見・早期治療が大切です。
結核は現代でも、年間1万人以上の患者が発生し、約2千人が命を落としている病気です。せき・たんが2週間以上続いたり、微熱や体のだるさが続く場合は、早めに医療機関を受診しましょう。

厚生労働省 結核 検診